

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 4 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370111

研究課題名(和文)日本の演劇近代化とイブセンを中心とした19世紀末ヨーロッパ演劇の関係

研究課題名(英文) Theatre modernization in Japan and the relationship between Ibsen and European theatre at the turn of the 20th century

研究代表者

毛利 三彌 (Mori, Mitsuya)

成城大学・その他・名誉教授

研究者番号：10054503

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：日本における演劇近代化の過程で、イブセンの果たした役割およびそれがイブセンの活躍した19世紀末のヨーロッパ演劇のいかなる様相が日本の演劇には最も強く影響したか、その一端を明らかにすることができた。それは西洋演劇の伝統である言語表現としてのドラマのあり方をめぐる問題で、イブセンがその伝統の末端に位置すること、また、日本ではドラマの伝統が希薄であるために、イブセンの作品が衝撃的であったと同時に、どこか理解を超えていたことなどの問題である。

研究成果の概要(英文)：We have come to the understanding of problems in the modernizing process of Japanese theatre, which was much under the influence of Ibsen and the turn of the 20th century European theatre. Ibsen holds the position of the end of the dramatic tradition of the West as to give Japanese theatre a great impact. However, Japanese people felt that Ibsen was something beyond comprehension because drama in the Western sense of the word had been barely seen in Japanese theatre.

研究分野：演劇学

キーワード：イブセン 近代演劇 日本の演劇近代化

1. 研究開始当初の背景

我が国におけるイブセン研究およびイブセン受容の研究は、従来、近代の日本文学あるいは日本演劇を専門分野とする研究者によるものが多く、それらは、近代ヨーロッパ演劇におけるイブセンの位置およびその受容の視点を欠いていた。したがって、新劇の成立にかかわる諸問題を、日本の特殊性から見るきらいがあり、ヨーロッパの近代演劇成立過程との関わりから論じられることは少なかったといえる。たとえば、日本のイブセン受容に重要な役割を果たした坪内逍遙と森鷗外は、それぞれイギリス、ドイツの同時代演劇というよりは、それぞれの国の古典的演劇により精通していたが、このことが、演劇近代化にどのように作用したかというような問題などはあまり検討されてこなかった。また、日本のイブセン翻訳上演の最初がイブセン晩年作品で、欧米では一般にはあまり知られることの少ない『ヨン・ガブリエル・ボルクマン』であった理由も、ヨーロッパの演劇事情を知ることなくしてはじゅうぶんに解明されない。私は、イブセンの全戯曲作品を分析して3巻のイブセン論にまとめるとともに、『明治期演劇近代化の問題』と題する著書の部分をなすものとして、イブセン受容と新劇成立の関係を論じたが、その延長上に、本研究は位置づけられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、つぎの3点に要約される。

- (1) 近代日本演劇の成立に関する問題点を新たな視点から探ることで、近代演劇史再構築の手がかりとする。
- (2) 日本の近代演劇成立あるいは演劇近代化において果たしたイブセン受容の役割を再検討し、近代ヨーロッパ演劇におけるイブセンのそれと比較することで、日本とヨーロッパの近代演劇の相違点、類似点を明らかにする。

(3) 上記の研究を世界の近代演劇研究の中に位置づけ、近年の近代日本演劇への国際的関心に応える。

3. 研究の方法

本研究を遂行するための方法として、大きく次の3つがあった。

- (1) ノルウェーおよびその他のヨーロッパ諸国に暫時滞在して、欧米における近年のイブセン研究を検討し、日本のイブセン受容史と近代ヨーロッパのそれとの相違および共通点を明らかにする。
- (2) 近代日本の政治的、社会的変容に関する様々な見解、議論を吟味し、それらがどのように演劇の近代化に関わりをもったか、日本における研究文献の検討を行う。
- (3) 演劇およびイブセンの国際会議における発表を通じて、世界の研究者と学術的交流を行い、彼らの関心と考察の動向、水準を知ることで、本研究の国際的意義を高める方向を見定める。

4. 研究成果

本研究の各年度に開催された演劇研究の国際会議（各年の国際演劇学会年次大会およびアジアにおけるアジア演劇ワーキンググループのコロキウム）に、毎回出席し、グループのコンヴィナーの一人として、日本におけるイブセンを中心とした演劇近代運動のさまざまな問題点を明らかにするとともに、各国の研究者の発表の司会をつとめ、世界の近代演劇運動の様相の比較検討を主導した。その成果をまとめた各研究者の論文のアンソロジー「アジアにおける演劇近代化問題」を編集し、インドの出版社から2017年中に出版される。これは前記の研究目的のうち(3)の成果となる。

2013年には、私の近代日本演劇論が北京戲劇学院の紀要に翻訳掲載され、またストックホルム大学の Sauter 教授編集の本 *Playing Culture* に、私の日本

演劇における演技分析の論文が収録された。2014年には、私の演出によるイブセン連続上演の終了後、それらの台本をまとめて出版した。これらは、前期の目的(1)の成果と言える。

2015年には、イブセン晩年作品『小さなエイヨルフ』を日本独自の視点から分析し、その英語論文が、ノルウェーの *Ibsen Studies* に掲載されたが、これは前記目的の(2)の成果と言える。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 4 件)

Mitsuya Mori, “The Structure of the Interpersonal Relationships in Ibsen’s *Little Eyolf*: A Japanese Perspective”, *Ibsen Studies*. Volume 15, issue 2, Oxford: Routledge, 2015, Pp: 142-171. 査読有
毛利三彌、「東アジア演劇の伝統と西洋受容」、『演劇学論集』日本演劇学会紀要 59、2014 年秋号、90-105 頁。[日本演劇学会 2014 年度全国大会特別講演] 査読有

Mitsuya Mori, “The Structure of Acting Reconsidered: from the Perspective of a Japanese Puppet Theatre, *Bunraku*,” *Playing Culture: Conventions and Extensions of Performance*, Ed. V. A. Cremona, R. Hoogland, G. Morris and W. Sauter, Amsterdam-New York, Rodopi B.V., 2014. (2 月) 243-261 頁。査読有
Mitsuya Mori, “Problematic Aspects in the Early Stage of Theatre Modernization in Japan”(中国語翻訳)、『戯劇』(Drama)、中央戯劇学院学報(The Journal of the Central Academy of Drama)、17-27 頁、2013, No.3 (vol.149) 査読有

[学会発表](計 5 件)

Mitsuya Mori, “The modern perception of the traditional theatre in Japan: a

theoretical perspective”, IFTR Asian Theatre Working Group Colloquium, Singapore, 2016.

Mitsuya Mori, “The death of *shingeki* (new drama, or a new art theater) in Japan”, IFTR annual conference in Hyderabad, India, 2015.

Mitsuya Mori, “Some problematic aspects of the early *shingeki* (new drama) in Japan”, Annual Conference of the International Federation for Theatre Research at Warwick University, UK, 2014.

Mitsuya Mori, “The Way to Shingeki: Three Stages of Theatre Modernization in Japan,” IFTR, Asian Theatre Working Group meeting, 大阪. 2014 年 3 月 15 日.

Mitsuya Mori, “The Third Stage of Theatre Modernization in Japan: the Last Years of the Meiji Era,” IFTR Conference in Barcelona, Spain. 2013.

[図書](計 2 件)

Mitsuya Mori, Thomas Rimer and Cody Poulton, ed, *The Columbia Anthology of Modern Japanese Drama*, New York: Columbia University Press, 2014. 718 頁。
毛利三彌 『イブセン現代劇上演台本集』論創社、2014 年 2 月。502 頁。

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6．研究組織

(1)研究代表者

毛利三彌 (Mori, Mitsuya)

成城大学・名誉教授

研究者番号：10054503

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし